イザベラとひさしの町が蘇る ツインタイムトラベル

特定非営利活動法人 えき・まちネットこまつ［山形県川西町］

団体設立の経緯

地方ローカル線駅が無人化の危機に瀕した時、地元高校生がストップをかけ、その高校生の活動に地元住民が共鳴し設立した本法人は、任意団体の設立から満5歳を迎えます。この間、JR駅業務の有人受託やコミュニティ駅の取り組み、駅を中心にしたまちづくりなど多彩な事業に取り組みながら、駅前通りの高校生チャレンジショップの開店や、空き店舗をリニューアルしたまちなか交流施設の運営など多くの実績を残しています。そのきっかけになったのは、H&C財団より平成22年度に助成を受けた「町民駅を中心にしたまちづくり、ひとづくり事業」であり、この事業で誕生した高校生のまちなか巡りは、全国高校生観光甲子園でグランプリを獲得しました。このように、住民と高校生が手づくりで組織化した団体の地域活動が認められ、平成26年1月には、山形県から特定非営利活動法人設立の認証を受け、法人化が実現しました。

地域概要

川西町は、1955年に小松町など近隣1町5村が合併して誕生し、当時の人口は約30,000人を数えました。しかし、現在では17,000人を切り、高齢化率は35%に近付いています。このように少子高齢化の一途を辿る町勢の中で、当法人が所在する小松地区は、本町の中心部にあり、以前は越後街道や羽州街道、最上川舟運に至る長井街道の要衝および宿場として栄え、活気溢れる地域でしたが、近年は後継世代や商工業者の郊外および町外流出によって、人口や産業の空洞化、空き家や空き店舗の急増が顕著になってきています。このような現状から、当地区では地域活性化やにぎわいのある地域おこしにスポットを当てながら、「地区民に密着した地域づくり」「共に考え参加する地域づくり」「世代間交流と次世代につながる地域づくり」のスローガンを、NPOや農商工業者と共に具現化する事業を展開しています。

設立年月・・・平成 22 年 2 月
法人化した年月・・・平成 26 年 1 月
メンバー数・・・142 名
代表者名・・・理事長　江本一男（えもと・かずお）
連絡先・・・〒999-0121　山形県東置賜郡川西町　大字上小松 1644 番地
☎ 0238-42-2533　eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp
http://www5.omn.ne.jp/~eki-mn-7/
団体のミッション・・・私達は地方ローカル線駅の有人化を守りながら、駅を中心としたまちづくりや地域活性化を目的として、事業や活動を行っています。共に学び、共に行動しながら、持続可能な地域を見出すためのアクションを展開しています。

活動に至った理由や背景

団体設立以来、「共感・共生・共創」を活動テーマとして、地域住民と一体化したまちづくりに取り組んできた私たちは、地域資源を掘り起こした事業運営と助成だけに頼らない財政基盤の確立が肝要と考えています。本事業は、本町にある文化および観光資源を繋ぎ合わせ、時空を超えた周年観光プランとして活用しながら、地域の活性化と観光人口の増大をめざし、さらには古道の復元やイザベラの鐘建立によって、新しい観光スポットや交流の場づくりも実現すると考えています。アベノミクス効果が喧伝される昨今ですが、未だ地方は衰退に喘いでいます。また、営々と継承されてきた伝統や技能、慣習も途絶の危機に瀕してもいます。地域の伝統や文化的「いいもの」、即ち宝物をもう一度掘り起こし、空き家や空き店舗の増加という一見マイナス要因とされる現状を地域資産の増大と考え、その活用に知恵を結集する契機とするため助成事業への申請を行い、活動を始めました。

雑木に覆われていた諏訪峠古道を保存会や置賜農業高校生が協力しあって見事に復元した。

活動の内容

諏訪峠古道整備

イザベラバードが旅したといわれる越後街道十三峠の最後の峠であった諏訪峠古道は、古道保存会によって整備されていましたが、近年は会員の高齢化が進み、荒廃し始めていました。今回の活動では、置賜農業高校生と保存会の会員、さらには賛同する住民も協力しあって倒木の伐採や下草の刈り取りに取り組み、古道復元を実現させました。また、頂上付近には見晴らしスペースも完成しました。

5月22日（木）　第1回古道整備/雨天中止
6月12日（木）　第2回古道整備/古道保存会との合同整備
6月19日（木）　第3回古道整備/置賜農業高校生
6月26日（木）　第4回古道整備/置賜農業高校生
7月10日（木）　第5回古道整備/雨天中止（大雨による列車不通）
7月17日（木）　第6回古道整備/置賜農業高校生
8月28日（木）　第7回古道整備/保存会と置賜農業高校生
9月18日（木）　第8回古道整備/保存会と置賜農業高校生
10月2日（木）　第9回古道整備/保存会と置賜農業高校生
10月9日（木）　第10回古道整備/置賜農業高校生

諏訪峠古道保存会例会及び十三峠案内人講座
7月1日（火）　みやまち楽市
9月26日（金）　十三峠案内人講座

1878年、英国女性旅行作家のイザベラ・バードが宿したと記された日本奥地紀行は、本町出身の高梨健吉慶応大学名誉教授が初めて訳した。

イザベラバードの
セカンドタイムトラベル&
スタンプラリー

当初は「ツイントラベル」と称しましたが、金坂清則氏の名称と重なるという意見もあり「セカンドタイムトラベル」に変更したまちなか歩きを実施しました。7月にはトライアル、8月から10月までは高校生がガイドを務めるタイムトラベルを合計3回実施し、高校生の案内役も好評でタイムトラベルを継続して欲しいとの声も聞かれました。また、8月24日～12月7日までは、参加者がスタンプラリーカードを持って9つのチェックポイントを訪ね歩く、「バードとひさしのセカンドタイムトラベルスタンプラリー」を開始しました。350名の応募者があり、実際にスタンプラリーを完成させた方が180名いましたが、まちに関するクイズの正解者は78名でした。

7月12日（土）　トライアル／参加者15名
8月9日（土）　第1回高校生によるスタンプラリー まちなか巡り／40名参加
8月11日（月）　セカンドタイムベルトラスタンプラリーのチェックポイント・カード準備
8月24日（日）～12月7日（日）　セカンドタイムトラベルスタンプラリー
9月20日（土）　第2回高校生によるタイムトラベル まちなか巡り／18名参加
10月12日（日）　第3回高校生によるタイムトラベル まちなか巡り／22名参加

まちなかにある古墳など、まちの宝物を高校生が紹介しながらトラベル&スタンプラリーが続けられた。

イザベラバードの鐘（イザベル）建立

バードが滞在した地であることを知らしめる街中モニュメントを作ろうと考え、イザベラバードの鐘（通称イザベル）の建立に取り組みました。6月23日から工事を開始し、7月1日に取り付け塗装。

7月11日には看板設置とライトアップ工事を終了して、7月12日に除幕式を行いました。当日は川西町長を始め来賓及び関係者25名が参加して、新しい名所の完成を喜びました。また、8月2日からは「イザベル」ライトアップも始まり、地元住民ばかりでなく観光客のみなさんにも大変喜ばれています。意外な効果は、地元の高校生や子ども達が、鐘を鳴らしながら看板に記載された内容を読んで、イザベラバードの滞在地であることを理解してくれたことであります。とても効果的なモニュメントになったと、各方面からの評価もいただきました。

6月23日（月）　工事開始
7月1日（火）　取り付け塗装
7月11日（金）　看板設置・ライトアップ工事
7月12日（土）　除幕式
8月2日（土）　「イザベル」ライトアップ

バードとひさしの

ワイド地域　地域の情報をお寄せください
酒田支社 0234(22)1580
鶴岡支社 0235(22)2810
新庄支社 0233(22)3580
尾花沢支社 0237(22)0165
村山支社 0237(55)2532
東根支社 0237(43)7333
寒河江支社 0237(86)4241

新スポット「バードの鐘」除幕

諏訪峠古道や金子邸

旅した道も巡る

川西　明治時代の山形路を旅した英国人女性旅行家イザベラ・バードの川西町での足跡をたどるまちなか歩きが12日、町内で開かれた。諏訪峠古道などを歩いたほか、JR羽前小松駅東口に新しく完成した「イザベラ・バードの鐘（別称・恋咲くイザベル）」の除幕式も行われた。

NPO法人えき・まちネットこまつと諏訪峠古道保存会が実施した諏訪峠は、バードが上小松村（現川西町上小松）に入るために通った越後米沢街道・十三峠の最終峠。荒れた状態だったため、同保存会と置賜農業高の生徒らがこの日までに、雑草刈りや倒木の撤去などに取り組んだ。

「イザベラ・バードのセカンドタイムトラベル」と題したこの日のイベントには、同校や保存会の会員ら約20人が参加。諏訪峠古道や諏訪神社、宿泊地「金子邸」などバードが旅した道を、同保存会の片倉尚会長代行の案内で巡った。

「恋咲くイザベル」は、バードにちなんだ観光スポットを造ろうと、同NPO法人が「ハウジングアンドコミュニティ財団」の助成を受けて新設。除幕式では、同NPO法人の江本一男理事長が「この鐘をまちなか巡りのスタートゴールにしたい。若い人たちが出会える場所になるといい」とあいさつ。原田俊二町長と置賜農高生らが除幕した。

JR羽前小松駅東口にお目見えした「恋咲くイザベル」　＝川西町

駅前にはイザベラ・バードの鐘も建立されて新しい観光名所になり、イルミネーションも施された。

ふれあいエリア作り

バードとひさしのふれあいエリア作りは、11月3日にイザベル付近に芝桜の定植を行うと共に、11月24日と12月5日には八重桜の移植及び雪囲いを実施しました。

今回の活動は、地元の新聞やケーブルテレビでも取り上げられ大きな話題となりました。また、町主催や他団体主催のまちなか巡りでも、今回のコースが活用され、特に今年4月に実施された井上ひさしさんの吉里吉里忌におけるまちなか巡りでは、100名近くの参加者があり、大変注目を集めました。

11月3日（月）　芝桜の定植
11月24日（月）　八重桜移植準備
12月5日（金）　八重桜移植と雪囲い

活動の成果

少子高齢化や中心市街地の空洞化が進む当地区にあって、歴史的かつ文化的観光資源であるイザベラバードや井上ひさし氏に因んだ所縁の施設を整備し、まちなか巡りの企画を進めることで観光振興や農都交流に貢献することができました。また地元のシンボルとして住民とともに活動することで、観光資源としての重要性を共に認識し、地域コミュニティの連帯と創造、および協働の機運が向上したとおもいます。具体的な効果では、①諏訪峠やイザベラの鐘、ふれあいエリアの復元や整備によって、観光資源としてのつながりや広がりが増しました。②まちなか巡りの発着地を担当者が常駐する駅に置くことで、年間を通した観光イベントが可能になり継続もし易くなりました。③地区内各所に点在している観光資源を結びながら、地区住民の自覚や自信、誇りの涵養に寄与し、保存にもつながりました。そして、諏訪峠古道保存会や小松地区地域振興協議会、さらには置賜農業高校や町観光協会との連携によって、組織的な観光振興や観光資源の保護整備が図られたと思います。

今後は、定期的な観光事業としてセカンドタイムトラベルやスタンプラリーを継続していきたいと考えています。

今後の予定

①「バードとひさしのまちなか歩き」の定番化

今年度も7月と9月にJR東日本の駅長おススメの小さな旅として、「バードとひさしのまちなか歩き」が実施されます。高校生が案内役を務めるこのまちなか歩きを定番化していきます。

②諏訪峠古道頂上へあずま屋整備

置賜農業高校生と共に古道の整備を進める中で、古道への間伐材チップ敷設と頂上へのあずま屋建設を進めていきたいと思います。

③今年度の全国高校生観光プランニングコンテストに「イザベラ・バードの道を旅するツアー」応募

置賜農業高校生が取り組む観光プランニングの実現に連携しながら頑張っていきたいと思います。